

第三編 文出の奥側

第二章 藤文御公切

1 藤文御公切の文出側

2 藤文御公切の奥側

3 藤文御公切の東出側

4 藤文御公切の西出側

5 藤文御公切の南出側

6 藤文御公切の北出側

7 藤文御公切の東出側

8 藤文御公切の西出側

9 藤文御公切の南出側

10 藤文御公切の北出側

東部町誌 歴史編 上 目次

1 古墳と石室

2 藤文御公切

3 藤文御公切の東出側

4 藤文御公切の西出側

5 藤文御公切の南出側

6 藤文御公切の北出側

7 藤文御公切の東出側

8 藤文御公切の西出側

9 藤文御公切の南出側

10 藤文御公切の北出側

11 藤文御公切の東出側

12 藤文御公切の西出側

13 藤文御公切の南出側

口絵

歴史のロマンを探る……………東部町長 保科 倅教

「歴史の宝庫」……………監修者 黒坂 周平

例言

# 第一章 原始

川上 元 堀田 雄二  
西沢 浩 保坂 富男

## 第一節 旧石器時代

1 日本列島の夜明け……………一五

人類の誕生 人々の生活 石の道具 石器群の変遷  
旧石器文化の研究

2 東部町の旧石器時代遺跡……………一九

- ① 上の原遺跡群
- ② 辻田遺跡
- ③ 野行田遺跡
- ④ 舞台遺跡

3 旧石器時代の東部町……………二二

## 第二節 縄文時代

1 縄文文化の展開……………二四

豊富な食用植物 縄文土器の出現 縄文人の食糧

縄文人の道具

2 東部町の縄文遺跡……………三一

(一) 和地区の縄文遺跡

- ① 鍛冶屋遺跡
- ② 下平遺跡
- ③ たたら堂遺跡
- ④ 中原遺跡
- ⑤ 辻田遺跡—和記念館資料

(二) 田中地区の縄文遺跡

- ① 城の前遺跡
- ② 舞台遺跡
- ③ 伊勢原遺跡

(三) 滋野地区の縄文遺跡

- ① 塚穴遺跡
- ② 滋野小学校資料
- ③ 戌立遺跡
- ④ 桜井戸遺跡

(四) 柗津地区の縄文遺跡

- ① 草創期・早期遺跡
- ② 桜畑遺跡
- ③ 不動坂遺跡
- ④ 真行寺遺跡
- ⑤ 久保在家遺跡
- ⑥ 古屋敷遺跡

3 縄文時代の東部町……………二二

遺跡の分布と広がり

第三節 弥生時代……………一二四

1 弥生文化の変遷……………一二四

長野県下に二つの文化圏 食器・調理具としての弥生土器  
米づくりの道具

2 東部町の弥生遺跡……………一二八

(一) 和地区の弥生遺跡

- ① たたら堂遺跡
- ② 鍛冶屋遺跡
- ③ 和記念館資料

(二) 田中地区の弥生遺跡

- ① 城の前遺跡
- ② 高呂添遺跡
- ③ 城の前北遺跡

- ④ 長縄手遺跡
- ⑤ 田中小学校収蔵資料

(三) 滋野地区の弥生遺跡

(四) 柅津地区の弥生遺跡

3 弥生時代の東部町……………一五五

弥生文化の広がり

第二章 古代……………

石川 好一  
川上 元  
塩入 秀敏

第一節 古墳からみた東部町……………一六三

1 古墳の出現と移り変わり……………一六三

(一) 古墳とは何か

(二) 墳丘墓

(三) 古墳の出現

(四) 前期前方後円墳の築造とヤマト政権

(五) 古墳の変遷(時期区分)

- ① 前期(三世紀末～四世紀末)
- ② 中期(五世紀)
- ③ 後期(六・七世紀)

(六) 古墳の年代決定

2 東部町の古墳……………一六八

(一) 和地区の古墳

- ① 蛇川原古墳
- ② 二子塚古墳
- ③ 八幡社前古墳

- ④ 中曾根親王塚古墳
- ⑤ 児玉山古墳群

- ⑥ 地獄沢古墳と青銅鏡・杏葉
- ⑦ 上権田古墳

(二) 田中地区の古墳

(三) 伊勢原第二号古墳

(三) 滋野地区の古墳

塚穴古墳

(四) 柅津地区の古墳

- ① 狐山古墳
- ② 上金山古墳と周辺の古墳

- ③ 古見立古墳と蕨手刀

3 古墳時代の東部町……………一九九

(一) 東部町の古墳立地

(二) 古墳の墳丘と石室

- (一) 古墳の出土遺物
- (二) 古墳の被葬者

## 第二節 遺跡からみた古代の

人々のくらし……………二〇四

1 くらしの移りかわり……………二〇四

(一) 古墳ができたころ

ムラの形成とひろがり 中央政府とのかわり

(二) 人々の住居

炬からカマドへ

(三) 生活の道具

うつわものと農耕具

2 発掘された東部町の集落遺跡……………二〇八

(一) 和地区の集落遺跡

① 成沢遺跡 ② 和記念館収蔵土器 ③ 次郎淵遺跡

④ 上権田遺跡 ⑤ 大門田遺跡

(二) 田中地区の集落遺跡

① 城の前遺跡 ② 高呂添遺跡 ③ 伊勢原遺跡

④ 信越線沿線の遺跡

(三) 滋野地区の集落遺跡

① 片羽遺跡 ② 上屋久保遺跡 ③ 塚穴遺跡

④ 陣場遺跡 ⑤ 桜井戸遺跡 ⑥ 新屋遺跡

- ⑦ 滋野小学校所蔵の奈良・平安時代の土器
- ⑧ 林津地区の集落遺跡

- ④ 桜畑遺跡 ② 不動坂遺跡 ③ 古屋敷遺跡
- ④ 油田遺跡

3 考古学的にみた古代の東部町……………二六三

## 第三節 今に残る「県」「三分」地名……………二六五

1 「県」のおこり……………二六五

(一) 「県」地名のあゆみ

(二) 「県」とは——当時の日本の様子

国県制の成立 『隋書』の記録 信濃の国では

朝廷の料地としての御県

(三) 「小県」のおこり

正倉院の御物から 「大県」はあるか 多氏と小子部氏

海野郷にいた高級技術者

2 信濃国造と「屯倉」……………二七九

(一) 国の統一と科野国

「信濃国」のはじまり

中国の史書にみる日本国の成立のようす 「科野国」はどこか

(二) 県主制から国造制へ

(三) 信濃の国造

国造と「直」 阿蘇から信濃へ 根拠地はまず小県

第四節 大化の改新と小県地方……………三〇五

(四) 「三分」の意義

古い地名の「みわけ」 「屯倉」との関係

東部町の屯倉は 屯倉の主は大伴氏か

(五) 大伴氏と久米氏

久米氏存在 大伴氏の活躍 馬飼いの伝承

信濃の国の大伴氏

1 「大化の改新」と地方政治……………三〇五

(一) 改新の前夜

「氏姓制」の成立 中央集権の確立

(二) 大化の改新

政治改革を断行 国司の派遣 「改新の詔」

(三) 地方政治の変化

変わってきた地方支配 信濃の動き

何を物語る「おさた」の地名

(四) 壬申の乱と信濃

壬申の乱おこる 天武天皇の施策

2 信濃国司と国府……………三一九

(一) 信濃の国司

国司の役割 信濃の国司 東部町と石川朝臣

注目される滋野氏の補任

(二) 信濃国府と小県郡

信濃の国府はどこか 密接な国分寺との関係

国府は小県郡のどこへ設置か 発掘調査でも確認できず

大きかった農民の負担

(三) 信濃国府の移転

移転の理由 移転の時期

(四) 信濃国司と滋野氏

(五) 郡司と郡衙

「評」から「郡」へ 国司と郡司 小県の郡衙

3 地方のようす……………三三二

(一) 「郷」と「里」

郷里制の誕生と消滅 「五十戸一里」制 郷戸と房戸

(二) 農民のくらし

班田収授の法 いろいろな課役 兵役も課せられる

(三) 条里的遺構

条里制の施行 上小地方の条里的遺構

4 海野郷のおこり……………三五一

(一) 「海野郷」から「嬢の里」

「嬢の里」の呼び名 東部町の呼称の変化 「嬢塚」とは

(二) 海野郷の「爪工部」

爪工部とは 小県の渡来人

第五節 東部町を横断する東山道……………三六三

1 古代の東山道……………三六三

(一) 古代の道

生活の変化と道の発達 東国への支配の広がり

(二) 古い東山道

重要性を増した東山道 信濃の古代東山道

(三) 駅伝制

駅伝制の誕生 駅馬と伝馬

2 延喜の官道としての東山道……………三七二

(一) 吉蘇路の開削と保福寺峠

吉蘇路の開通 保福寺峠

(二) 『延喜式』にみる東山道駅家と東部町

信濃の駅家 浦野と日理駅 東部町のルートは

(三) 『宴曲抄』にみる道筋

『宴曲抄』中の地名 東部町の通過地

湧水地を結んだ道筋 横通しの古い道

市神と市神を結んだ道 十二平から地蔵峠へ

羽掛社と白鳥伝承 望月・布引への道

第六節 信濃国分寺の建立……………三九〇

1 建立の詔勅と事業のありさま……………三九〇

(一) 国分寺建立の詔(天平の詔)

天平の詔の発布 国分寺建立の経緯

(二) 国分寺建立事業の状況

膨大な費用 建立状況を監察させる

2 信濃国分寺跡の発掘……………三九三

(一) 信濃国分寺跡をめぐって

(二) 信濃国分寺跡の大発掘調査

調査の概要 僧寺跡の遺構 尼寺跡の遺構

瓦窯跡の遺構 出土した遺物

第七節 小県郡八郷と童女郷……………四〇二

1 『和名抄』にみえる童女郷……………四〇二

(一) 『和名抄』にみられる信濃の郷

山家郷 須波郷 跡部郷 福田郷 安宗(曾)郷

海部郷 童女郷

(二) 『日本霊異記』と嬢里

二つの説話 「嬢の里」と「連」 大伴氏との関係

第八節 古代の牧——新治牧……………四一三

1 古代の牧……………四一三

(一) 「牧」のおこり

牛馬飼育のはじまり 東部町のようす

(二) 厩牧令

「厩牧令」とは 広大な土地が必要だった

2 信濃の牧と貢馬……………四一八

(一) 信濃の御牧

信濃一六牧 馬はどのくらいいたか 牧の監督者

(二) 信濃の貢馬

貢馬の状況 貢馬数の変遷

3 小県の牧……………四二二

(一) 新治(張)牧

発展の状況 どこにあったか

(二) 塩原牧

(三) 塩河(川)牧

(四) 牧の経営と滋野三氏

大伴氏の系をひく経営者 祢津氏とは 滋野氏について

滋野氏と信濃

第九節 古代国家の崩壊……………四四七

1 荘園の増加……………四四七

公地公民制の崩壊 荘園の発達

2 小県の荘園……………四四八

桜井 松夫

第三章 中世……………五六三

川上 元

第一節 鎌倉時代……………四六七

1 中世への推移……………四六七

京への道を急ぐ根津・海野氏主従 保元の乱とその背景

祢津・海野氏の奮戦 軍記物語と史実 武士の世のはじまり

武士とは 中世への推移

2 海野荘と海野氏の伸展……………四七七

(一) 海野荘

海野荘のおこり 荘園制のなりたち 海野荘のなりたち

荘園の伝領と荘務 海野荘の伝領 楞伽寺領となった年代

海野荘の領家となった人々 海野荘の荘務 海野荘の荘域

(二) 海野氏の発展

木曾義仲の軍、白鳥河原に集結 海野氏と義仲とのつながり  
海野幸広と大夫坊覚明 清水冠者義高と海野幸氏  
御家人海野幸氏の面目

3 白田氏の所領と氏称 ..... 五〇六

(一) 白田氏の所領  
白田氏と白田文書 海野荘加納田中郷と滋野氏・田中氏  
鞍懸糸賀沢村と三分条今井村

(二) 白田氏の氏称  
返還された所領と白田氏の氏称 白田氏と霜月騒動  
武蔵国小帷郷を入手したわけ

4 新張牧と柵津氏の伸展 ..... 五二五

(一) 新張牧  
新張牧の乃貢京へ届かず 新張牧の年貢とその納入  
信濃の駒牽と新張牧 海野幸氏と武田信光との相論

(二) 柵津氏の活躍とその背景  
木曾義仲の拳兵と柵津氏 幕府の御家人柵津氏  
柵津神平貞直の鷹の妙技 柵津氏と鷹匠桜井五郎  
白鷹を献上したのはだれか 諏訪上社の祭りと鷹  
養鷹柵津流の系譜と技術 柵津に残る鷹の関係地名

第二節 南北朝時代 ..... 五五三

1 鎌倉幕府の滅亡と中先代の乱 ..... 五五三

北条氏の滅亡と亀寿丸 諏訪・滋野氏ら鎌倉を奪い返す  
わずか二六日の中先代 信濃の動き  
尊氏と義貞の激しい攻防 柵津氏越前で戦う

2 観応の擾乱と柵津氏 ..... 五六九

足利尊氏・直義兄弟の不和 丸子尾野山中尾の戦いと柵津氏  
滋野一族と尊氏との武蔵野合戦

3 南北朝期の白田氏の動向 ..... 五七七

田中郷内四町歩の「光重所領避状」  
白田氏上総の与字呂保を所望 白田氏、常陸国布佐郷を領有

第三節 室町時代 ..... 五八三

1 室町幕府の統治政策と信濃武士の動向 ..... 五八三

南・北両朝の合体 幕府の統治策と信濃武士の動向

2 大塔合戦 ..... 五八七

信濃守護の交代 守護小笠原長秀の施策と人柄  
両軍の軍勢と布陣 大塔合戦のてんまつ

3 芦田下野征伐と海野・柵津氏 ..... 五九七

依田氏の動き 芦田下野守の征伐  
柵津・海野氏のかかわり



4 「結城陣番帳」と海野・祢津氏……………六〇四

結城合戦と信濃武士との関係  
「結城陣番帳」と海野・祢津氏

5 海野氏の所領支配……………六〇七

御符札之古書 海野氏関係の所領  
室町中期海野氏の所領支配

6 祢津氏の所領支配……………六三五

御符札之古書と神使御頭 祢津氏の直轄領  
代官による支配地 祢津氏関係の支配所領

7 臼田氏の関東進出……………六五九

臼田氏の関東所領 沙弥定勝讓状と田中郷惣領職  
臼田氏系図と所領の相伝  
臼田氏一族の起請文と臼田氏のその後

第四節 戦国時代……………六六六

1 武田氏の来攻と統治……………六六六

(一) 海野平での合戦

合戦に関する二つの記事 関東管領上杉憲政を頼る

(二) 信玄の統治と海野・祢津氏

武田氏の内紛 信玄の信濃攻略と上田原合戦

東部町城と武田氏とのつながり

(一) 生島足島神社の起請文

武田家への結束を誓った起請文 東部町関係者の起請文

2 真田氏の台頭と上田築城……………六七九

(一) 武田氏の滅亡と真田氏の苦闘

武田氏に臣属 幸隆の功績 信綱と昌幸 武田氏の滅亡  
自立への苦悩 徳川家康に転属

(二) 上田築城と城下町

徳川家のもとの上田城着工 上田合戦(神川合戦)  
城下町形成

3 祢津氏の動向……………六九九

次々と転属真田の配下に 豊岡藩主となった祢津氏

第五節 中世の社会経済文化……………七〇一

1 武士の生活……………七〇一

海野氏居館 祢津氏居館 海野氏の本城矢立城

祢津氏の下の城と上の城 鎌倉武士の御家人制・番役  
諏訪上社の頭役と造宮役

2 社会と経済……………七三三

開発の進行と郷村の発達 生産の発達 市の進化

3 社寺と文化財……………七四〇

定津院 興善寺 長命寺 今は残らぬ中世の寺  
白鳥神社

4 発掘からみた中世の生活遺跡……………七五三

- (一) 太平寺遺跡……………六六六
- (二) 長繩手遺跡……………六六六
- (三) 田中善福寺遺跡……………六六六
- (四) 加沢善福寺遺跡……………六六六
- (五) 真行寺遺跡……………六六六

第六節 海野・柵津両氏系図考……………七六一

1 海野氏系図……………七六一

海野氏系図の諸本 二系統ある海野氏系図……………六三五

2 柵津氏系図……………七六五

柵津氏系図も二系統 天文一〇年後の柵津氏……………七六五